

単元名

親インピックで、拍手いっばいの演技をひろうしよう！

1 授業づくりの考え方

単元の捉え方

本単元は、学習指導要領 B 器械運動のA「マット運動」を受けて、回転したり、支持したり、逆位になったりする等、非日常的な感覚を味わう技に挑戦するとともに、演技や技のできばえを互いに認め合い、考えた事を友達に伝え合いながら、演技や技ができる楽しさや喜びに触れることができる運動である。

低学年での運動遊びの学習を踏まえ、器械運動の楽しさや喜びに触れ、その行い方を知るとともに、自己の能力に適した回転系や技巧系の基本的な動きや技を身に付け、その上で、発展技や技を繰り返したり組み合わせたりする事も行い、高学年の器械運動の学習につなげる。また、器械運動を楽しく行うために、自己の課題を解決するための活動や場の工夫を行い、きまりを守り、誰とでも仲よく運動をしたり、友達の考えを認めたり、場や機械・器具の安全に気を付ける事ができる単元とする。

児童の実態

体育科に関わる意識調査の結果から、本学級の児童は、全員が「体育科授業が好き」と回答している。器械運動に対する項目でも全員が肯定的回答をしている。また、体力・運動能力に差があっても、「授業に一生懸命取り組むことが大切」と全員が回答している。これらの結果から運動が苦手でも上手くできなくても学習には前向きな姿が伺える。しかし、心情・精神面に左右され、「思い切ったチャレンジができない」と回答する児童が数名いる。また、「一緒に運動をする友達がいるか」と問われた項目では、否定的な回答もあり、互いに関わり高め合うという認識がない児童がいる。さらに、自分の考えを伝えることには意欲的であるが、互いに考えを伝え合ったり、相手の考えを受け入れ変容できてよかったといった経験も乏しい。困難な課題に際し、互いの考えや助言を活かし、みんな達成していく経験が必要であると考える。

指導の工夫

①ゴール・問いのある授業づくり

- ・「保護者に自分達の演技を見てもらう」というファイナルタスクを設定し、その活動に向けて、友達と関わり合わせながらどうすれば技ができるのか、またグループ全体でできる技はないかを考えさせる。そうする事で、自己の技のレベルアップを図ったり、友達と関わって、よかったという思いをもたせたりする。
- ・自己の運動能力に合う技を選んだり、友達と技を組み合わせたりする等、個人だけでなくグループごとでも演技を考えさせる。

②効果的な場やルール・教具等の工夫

- ・集団演技の際に、児童がのびのびと自由に演技ができるようにマットを正方形に広く敷き、自分達が考えた技を披露しやすい場を作る。
- ・不安感や恐怖心を取り除くために、感覚づくりの運動を準備運動で取り入れる。
- ・ICT 機器（スプライザ）を活用し、「手」「頭」「お尻」「足」の視点から、児童同士で技のポイントについて教え合う。
- ・少人数のよさを活かして、個人やペアでの試技の回数を増やす。

③認め高め合う集団づくり

- ・個々の運動能力を考慮したグループを2つ作り、個人技の練習もグループ内で互いにアドバイスし合う。
- ・ワークシート「分かった できた かわれた ヨ〜シ！」を活用し、互いに関わり合い、高められるようにする。また、児童同士やで一緒に見合ったり、技のポイントについて話し合う活動を多く設ける。

2 単元構想図（全8時間）

最適解・納得解が更新され続ける問い（本質的な問い）
よりよい演技とは？

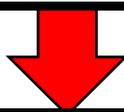
単元を貫く問い
たくさんの拍手をもらうための技や演技にするためには、どうすればよいだろうか？

単元の目標

知識及び技能	・マット運動の楽しさや喜びに触れ、その行い方を知るとともに、回転系や技巧系の基本的な技ができ、基本的な技に十分に取り組んだ上で、それらの技を繰り返したり、組み合わせたりすることができるようにする。
思考力、判断力、表現力等	・自己の能力に適した課題を見付け、技ができるようになるための活動を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えることができるようにする。
学びに向かう力、人間性等	・マット運動に進んで取り組み、きまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、友達の考えを認めたり、場や器械・器具の安全に気を付けたりすることができるようにする。

単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①マット運動の行い方を知るとともに、回転系や技巧系の基本的な技のポイントについて理解している。 ②自己の能力に適した回転系（前転など）や 巧技系（頭倒立など）の基本的な技ができ、それらの技を繰り返したり組み合わせたりすることができる。	①自己の能力に適した課題を見付け、課題に応じた解決の仕方や場を選び、技ができるようになるための工夫をしている。 ②個やグループの動きの変化や組み合わせなどについて考え、自分や友達が考えたことを伝え合っている。	①マット運動に進んで取り組もうとしている。 ②マット等の正しい使い方や技を観察する際などのきまりを守り、互いに励まし合ったり仲よくしたりしながら、マット運動をしようとしている。 ③課題解決のための方法や工夫を互いに伝え合う際に、互いの考えや気付きを認めようとしている。 ④マット運動のきまりを守ったり、場や器械・器具の安全を確かめたりしている。



時数	本時のめあて	授業の概要	めざす児童イメージ	評価の重点（方法）		
				知・技	思・判・表	主体
1	マット運動は、どんな技がある？	回転系の技を自由に行い、今自身ができる技を把握する。 マット運動における安全面を理解する。 ファイナルタスクを設定し、今後の学習への見通しをもたせる。	マット運動における安全面やきまりを理解し、自分が今できる技を認識している。 基本的な回転系・技巧系の技や発展技を知り、どの様なグループ演技ができるか視点を持ち、ファイナルタスクが設定できる。			④ （観察）

ファイナルタスク						
親リンピックで、拍手いっぱいの演技をひろうしよう！						
2	前転のポイントを発見し技を磨こう！	自己の能力に応じた場で練習をする。ICT 機器を活用し、互いに上手くいくポイントや工夫を伝え合う。頭・手・お尻・足の視点に気付かせる。	美しい前転をするためには、頭・手・お尻・足の位置が大切なことに気づき、互いにポイントについて伝え合っている。	① (観察)		② (観察)
3	後転・開脚後転のポイントを発見し、技を磨こう！	自己の能力に応じた場で練習をする。後転系の技をするためには、互いに上手くいくポイントや工夫を伝え合う。ポイントを踏まえた練習をし、技を磨く。	後転系の技も頭・手・お尻・足の位置が大切なことに気づき、互いにポイントについて伝え合っている。後転系の技を美しくするポイントを踏まえて、自己の能力に応じた練習に積極的に取り組むことができる。		① (観察・カード)	③ (観察)
4	開脚前転のポイントは何か？	自己の能力に応じた場で練習をする。開脚前転をするためには、どんなポイントがあるのか、これまでの学習・視点をもとに考える。児童同士で、変容した点を伝え、互いに励まし称えあう。	開脚前転をするためのポイントを、前時までの学習をもとに見つけ、互いにポイントを伝え合う。自己の能力に応じた練習に取り組むことができる。	② (観察・カード)		
5	技巧系技のポイントを発見し、技を磨こう！	自己の能力に応じた場で練習をする。頭・手・足等の位置に気付かせる。ICT 機器を活用し、互いに上手くいくポイントや工夫を伝え合う。	技巧系の技のポイントを理解し、自己の能力に応じた練習に積極的に取り組むことができる。	① (観察)		
6	できるようになった技を2つ以上入れた連続技や組み合わせ技を考えよう！	くり返しや連続技についての行い方を知る。自己の能力に応じた技の組み合わせを考え、グループでの演技構成を工夫する。	自己の能力やグループに適した技や課題を見出し、技や演技ができるようになるための工夫をしている。		① (観察・カード)	
7	よりたくさんの拍手をもらえる演技にするためには？ 【本時】	演技での動きの変化について考える。より拍手をもらえる演技にするための工夫や考えを、互いに伝え合う。グループ演技での変容について互いに認め合う。	より拍手をもらえる演技にするため、動きの変化やポーズなどについて、自分の考えを友達に伝えることができる。		② (観察・カード)	
8	甲奴小選手権をしよう！	自己の能力に応じた技の組み合わせや集団演技を発表し合う。互いの技や演技について、評価し合うとともに、練習などを通じて変わったことを伝え合う。	演技の披露を通して、互いに上達した事やできる様になったことなど学習の成果を認め合っている。	② (観察・カード)		① (観察・カード)

3 本時の展開

(1) 本時の目標

より拍手をもらえる演技にするために、個やグループの動きの変化（ジャンプ・倒れる・支える・ポーズ等）や組み合わせなどについて考え、自分の考えを友達に伝えることができるようにする。

(2) 本時の評価規準

個やグループの動きの変化や組み合わせなどについて考え、自分や友達が考えたことを伝え合っている。
(思考・判断・表現②)

(3) 準備物

- ・マット ・跳び箱 ・ロイター板 ・ホワイトボード、マーカー
- ・ワークシート（演技構成表） ・電子黒板 ・前時までの学習の掲示物

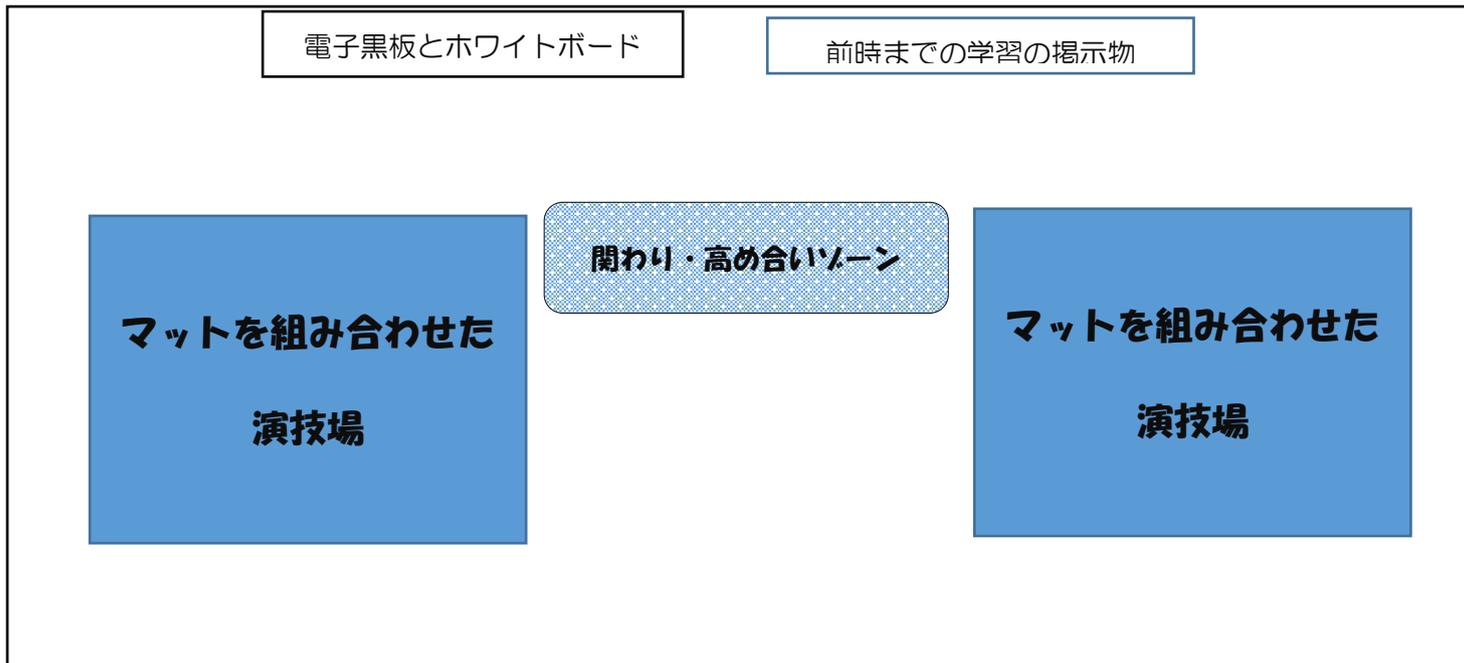
(4) 展開 【 第7時 / 8時間 】

	学習活動	◇指導上の留意点 ◆「努力を要する」状況と判断した 児童への手立て	評価☆ [評価方法]
<div style="border: 1px dashed black; display: inline-block; padding: 2px;"> </div> は、児童の気づき			
ファイナルタスク			
親リンピックで、拍手いっぱいの演技をひろうしよう！			
導 入	<p>(1) ウォーミングアップ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感覚づくりの運動をする。 <p>(2) 本時のめあてを設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時までの学習を想起する。 ・大学や他の学校の集団演技を映像見せ、前時までの演技と比較し、動きなど違う所を話し合わせる。 	<p>◇感覚づくり運動では、本時の学習内容につながる動きを行うとともに、本時への意欲を高め、ケガをしない様に十分運動をさせる。</p> <p>◆自己の運動能力に応じた運動や決めポーズの練習も行い、楽しみながらできる雰囲気づくりをする。</p> <p>◇演技の行い方やルールをおさえる。</p> <p>◇前時までしてきた事をふり返し、本時の活動へのヒントや視点(動きの変化)をもたせ、学習の見通しをもたせる。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・途中で止まってポーズをとってる。 ・同時に回ったりして、かっこいいなあ。 ・最後は、支え合い、みんなでポーズをとってるのがいい。 ・ジャンプしながらの動作も工夫できそう！ 			
		◇児童の言葉を使って本時のめあてを設定する。	
<p><u>本時のめあて</u> よりたくさんの拍手をもらえる演技にするためには、どんな動きをすればよいだろうか？</p>			
展 開	<p>(3) これまでの学習を活かして、最初や途中、最後の演技について考えさせながらグループで練習する。</p> <p>(4) 中間発表会を行い、動きの変化やポーズについて交流し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・映像を通して、前時までの演技と比較し、これまでと違う動きについて自由に気づきを発表する。 	<p>◇動きの変化の視点をもたせてから、自分達の能力にあった場所を作り、グループで考えさせながら練習に取組ませる。</p> <p>◇映像を撮影する際には、横から正面からの2方向で撮影さえる。</p> <p>◇運動量を確保しながら、3回した後で映像をもとに気づきについて交流し合う。</p> <p>◆ワークシートに書く気づきは、メモ書きでよいことを伝えておく。</p> <p>◇より拍手をもらえる演技にするために、自分達が考えた動きの変化やポーズについて発表させ合い、演技の最初・途中・最後での動きやポーズ「上下の動き」「止まる動き」等</p>	<p>☆より拍手をもらえる演技にするために自分が考えた動きの変化などを、友達に伝えていく。 (思考・判断・表現②)</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の発言から新たな視点をもたせる。 	<p>の新たな視点をおさえる。</p> <p>◆1人では難しいについては、補助をする児童や技が決まった時の複数人でのポーズについても考えておくといよいことを伝える。</p>	<p>【発言・観察・ワークシート】</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・演技の最初は、みんなでポーズを考えました。 ・表情も笑顔の方が、より拍手もらえるよね。 ・ずっと回る演技ではなく、ジャンプしたりする動きも取り入れたい。 ・演技の途中やどこかで、倒れ込む動きも入れたらかっこ良くなった。 ・決めポーズでジャンプを取り入れようと思ったら、回転を早くしないということが分かりました。 ・伸ばした膝を開店と柱に曲げると、最後のジャンプがしやすくなりました。 <p>は、互いに支えるようにしたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・回脚前転の後に倒れ込む動きを入れると、技の後に手を挙げないといけないので、勢いがつくように開脚のタイミングを前より遅くしました。 		
	<p>(5) 動きの変化を加えた演技の練習をグループで行い、さらに拍手がもらえるように工夫を加えて練習し、共有し合う。</p>	<p>◇児童同士が励まし合い、アドバイスし合う雰囲気をつくっておく。また、自己の能力に応じた場を中心に練習することをおさえる。</p> <p>◆難しい児童には、変わってきた点をしっかり褒め、自分やグループでできるようになったことを称賛する。</p>	
ま と め	<p>(6) 本時のまとめをする。</p>	<p>◇児童の言葉を使いまとめる。</p>	
<p><u>本時のまとめ</u> より拍手をもらえる演技にするためには、ジャンプや倒れたりといった動きの変化をもっとつけばよい。 ポーズを決めるには、回転した後の動作を早くすればいい。そのために、お尻を遠くについて勢いをつけたり、手の位置を前より遠くについて大きく回ったりすればいいことが分かりました。</p>			
	<p>(7) 学習の振り返りと次時の予告をする。</p>	<p>◇ワークシートに、「分かった事」「友達のおかげでをで変容したこと」を書かせる。</p> <p>◇次時は、親リンピックの前にグループ同士で出来上がった演技を披露する事を伝え、活動意欲をもたせる。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・わたしは、まだまだスピードが速くないので、次はしっかり足を伸ばして回りたい。 ・ぼくは、〇〇さんの声かけで、足を開くタイミングが分かってきたので、うれしかったです。 			

5 活用するワークシートや活動のルール等について

<本時の活動場面>



<単元を通して活用するワークシート> *ふり返しシートは、全学年共通のものを使用

親リンピックで、拍手いっぱいの演技をひろうしよう！！

3年 名前 ()

「分かった できた かわれた」ことを書きましょう。

☆前より「気がついた」「わかった」ことはネ



☆前より「できる」ようになったことはネ



☆友だちのおかげで「かわった」ことはネ



みんなで、いいえんぎにしよう！